

探訪 チャレンジ企業 38

ニッチを狙った繊維産地の新製品 —鳥害防止具「鳥締役」の開発— 釜金繊維工業：かほく市

一 鳥の害

各地から頻繁に鳥の害が伝えられてくる。「ごみ袋が破られ、ごみが撒き散らされた」に始まり、「丹精を込めて育てた西瓜が無残な姿に変わり果てた」「電柱上から糞の直撃を受けた」「ペランダに蒲団をほせなくなった」等々に至るまで被害は多岐にわたる。時には、ゴミ集積所の見張番を威嚇し、攻撃をしかけてくるといった報告もある。

鳥は頭の良い動物である。(二説には鳥の中で最も頭がよいという) ゴミ袋にネット



生ゴミ置き場のネットに「鳥締役」をつけるとカラスが近寄りたがたい。

た。収穫間近の折角の家庭菜園が荒らされる、あるいは家の前一面にゴミを撒き散らされるなどである。

何とか防止する方法はないだろうかと考えているうちに、鳥はヒモを嫌うというところを聞き、自社の技術を利用すれば、ヒモ状製品は充分に開発できると考えた。

八〇から一〇〇ミリメートルの長さに切り揃えたポリエステル製の横糸に、七ミリ幅で縦糸を織り込み、完成した後、一メートルにつき二〇〜三〇回の割合で捻ると、織った部分を中心にキラキラと輝く無数の輪ができる。鳥は恐れて近づかない。勿論、鳩やムクドリも近づかない。

自分で図面を引き、自分で手配した改造部品を織機に組み込み、自分で織り上げて新製品を完成させた。直ちに特許と商標登録を出願し、四月

がかけても、一羽がその端をつまみ上げ、もう一羽が中から残飯を抜き取るなど、当然のこととして行う。「人類は長い間、鳥に悩まされ続けてきた」と言えば言い過ぎだろうが、それに近い被害感情を持っている人は多い。

しかし、遂にその悩みから解放される時がきた。かほく市松浜の釜金繊維工業で、鳥害防止具「鳥締役」が開発されたのである。

二 「鳥締役」の開発

新製品「鳥締役」の開発者は、同社代表釜田金一郎氏である。本業はゴムを利用して伸縮自在の布地を織り上げるゴム入り織物製造業である。

同氏も御多分に洩れず、たびたび鳥の被害を蒙つてき



釜田金一郎代表

二日と三十日にそれぞれ成立させることができた。



鳥害防止具「鳥締役」

三 次の課題は販売チャンネルの確立

この発明の切っ掛けは、釜田氏個人の体験にあるとはいえず、具体的な商談として現れてきたのは、中部電力関連の鉄塔整備会社から「鳥糞により、足が滑るのを防止したい」との引き合いがあったことに始まる。この商談は成立しなかったが、続いて北陸電力へ同様の申し込みをしたところ、こちらは無事成約にこぎつけた。めでたく量産第一号品が誕生したのである。

また五月十六日・二十三日の二週にわたって、テレビ金沢の「トムトムトレイン」という番組で取り上げられ、その所為もあつてか、現在、東

京と金沢で、販売委託についての交渉が進行中である。またまれば、恒久的な販売チャンネルを構築できたことになり、同社は発展へ向けて大きく舵を切ったことになる。

四 繊維産地のニッチを狙った新製品

繊維産業がコスト面で外国製品に太刀打ちできなくなり、衰退産業と言われ始めて久しい。ゴム入り織物に限れば、付加価値が高く業界内では比較的競争力があると見られているが、先細り傾向にあることは否めない。

その中で、ニッチ製品とはいえ、業界の期待を担った非衣料分野で、久々に新製品が登場してきたことの意義は大きい。この製品が起爆剤となつて、次々と新製品の連鎖が広がり産地の活力が回復していくことを期待したい。

(お問い合せ)

釜金繊維工業

〒九二九一―一七二

石川県かほく市

松浜八四一―一

TEL〇七六―二八五―〇三三五

FAX〇七六―二八五―一九三二

Email:kin-kama@sea.plala.or.jp

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお訪ねください。